

子供の医療費について

【内容】

なぜ他の町村では中学生まで医療費が無料なのに、田辺市ではできないのですか？ 財源がないのは、どこの自治体でも同じではないですか？

あたまから決めつけるのではなく、財源確保や働く子育て世代を田辺市に移住してもらうような案だと思いますが、目先のことより長い目で考えてほしいです。

子供は、小学生が一番よくけがや病気をします。子育て世代の負担軽減にも目を向けないと、大変だと思います。検討よろしくお願いします。

【回答】

市の乳幼児医療費助成制度につきましては、受診頻度の高い乳幼児に係る医療費の自己負担分を支給することで、乳幼児の疾病の早期発見・早期治療、健康の保持・増進に寄与し、児童福祉の向上を図ることを目的とした子育て支援の一環として、全ての小学校就学前児童の入院及び通院を対象に、県から2分の1の補助を受けて実施しています。また県の補助制度では所得制限もありますが、本市では所得制限を撤廃し、所得制限分を市が単独で補助しています。

こうした中で、県下9市では、本市を含む3市が小学校就学前児童を対象としており、6市が小学校卒業（うち3市は小学生は入院のみ）までを対象としています。

仮に、本制度の対象年齢を中学校卒業までに拡大した場合、受給者数は現在よりも6700人増加し、約1万1000人となると見込まれ、この受給者数をもとに試算しますと、現在の予算額約1億2600万円に加え、約2億円が必要になります。この場合、拡大部分は県補助金の対象とはなりませんので、予算増加分は全額一般財源となり、厳しい財政状況の中では大変大きな負担となります。

本制度の財源確保につきましては、これまで地方から国へ要望されてきた経緯もあり、対象年齢の拡大につきましては、国・県の動向等を考慮しながら慎重に検討していく必要があると考えています。

(担当：保険課)